

Vol. 2-1
～「生きる力」を育む学校教育の推進～
学校再編かわら版

今回のテーマ 生徒数の減少についての課題

先生の仕事は、子どもたちに授業をすることだけでしょうか？答えは「No」です。先生方には授業以外に「校務」と呼ばれる仕事があります。「校務」とは、学校運営全般に関わる業務のことです。授業以外の、児童・生徒の管理（出欠、健康）、教職員の人事、施設整備、事務作業（成績処理、保護者連絡、各種報告書作成）、安全衛生管理など、教育活動を支えるあらゆる仕事の総称です。

学校に配置される先生の数が少ないと、一人の先生が複数の校務を兼任することになり、先生の負担も増えます。

先生の仕事って？

教育委員会からのお知らせ

西予市教育委員会では、生徒たちのより良い教育環境と望ましい学校教育の実現を目的として、学校適正配置を進めるための再編計画（素案）を策定しました。今後も、かわら版などの学校再編の情報をホームページに掲載していきます。



前回のかわら版では「生徒数の減少について」お知らせいたしましたが、生徒数が減るとどういった課題が出てくるのでしょうか。具体的にお伝えします。

生徒が減る ⇒ 教職員が減る

中学校の先生の配置数は、法律に基づき決定されます。校長先生は中学校に1人、教諭等（教頭先生・担任・教科担当）は学級数に応じて、学級担任と教科担当をカバーする形で、学校規模

ごとに「学級数×率」で算定されます。その他、養護教諭は3学級以上で1人などの決まりもあります。栄養教諭や事務職員も学級数・生徒数によって配置数が決まります。

例えば、3学級の中学校には9人の教員（校長を含む。）が配置できるよう率が設定されています。

3学級の場合の標準配置

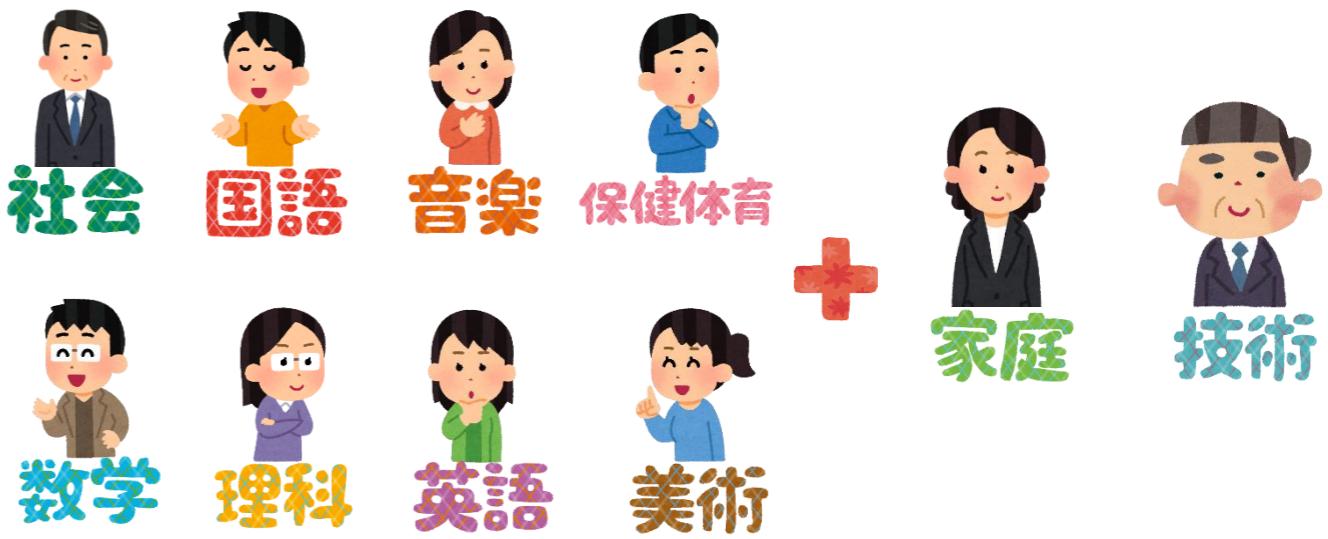


西予市では、共同学校事務室を設置していますので、全ての中学校に事務職員が配置されているわけではありません。

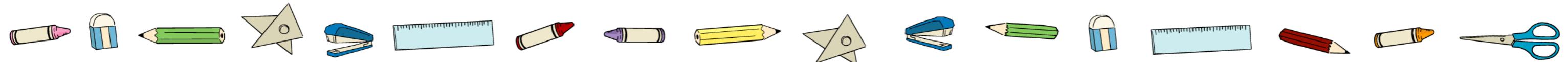
＜もちろん、23学級以上の率も決まっていますが、ここでは省略しています。＞

学級数	1	2	3	4	5	6
率	4.000	3.000	2.667	2.000	1.660	1.750
学級数	7~8	9~11	12~14	15~17	18~20	21~23
率	1.725	1.720	1.570	1.560	1.557	1.550

中学校の教科は、国語、社会、数学、理科、英語、音楽、美術、保健体育、技術・家庭科、技術家庭科をひとまとめにすると9教科、免許の数で言うと10教科の科目があります。その他、道徳などもあります。



西予市には3学級（特別支援学級除く）の中学校が3校あります。標準の計算で考えると、校長先生以外に8人の教諭（教頭先生含む）が配置されることになりますが、科目数に足りないのがわかるかと思います。そういう場合、非常勤講師の配置などで対応します。



中学校の先生は、それぞれの教科（国語、数学、理科など）に合った免許を持っていないと授業ができません。これは「相当免許状主義」といって、先生の専門性を大切にするためです。

理科の先生がいなかったり、免許を持つ先生（非常勤講師含む）が見つからない時、小規模な学校などではどうしても先生が足りなくなることがあります。

そんな時に、その教科の免許は持っていないけれど、別の教科の免許を持っている先生に、例外的に授業をお願いする制度があります。

免許外教科担任制度

ポイント

使えるのは「緊急のときだけ」

他に方法がなく、どうしても先生が確保できない場合にだけ使えます。

期間は最長1年間、都道府県の教育委員会が許可します。

誰でも使えるわけではない

免許を持っている教諭だけで、講師などは対象になりません。専門外の教科でも、ある程度の知識やスキルがあることが条件です。

先生にもサポートが必要

専門外の教科を教えるのは大変なので、学校や教育委員会はその先生に研修をしたり、専門の先生からのアドバイスを受けるなどの支援をするよう努めています。



家庭



技術



西予市の免許外教科

年度	学校名	免許外教科
R2	明浜中	家庭科1名
	城川中	家庭科1名・技術1名
R4	明浜中	家庭科1名
	城川中	家庭科1名
R5	三瓶中	家庭科1名
	明浜中	家庭科1名
	城川中	家庭科1名
R6	三瓶中	家庭科1名
	明浜中	家庭科1名
	野村中	家庭科1名・技術1名・美術1名
	城川中	家庭科1名
R7	三瓶中	家庭科1名
	明浜中	家庭科1名
	野村中	家庭科1名・美術1名
	城川中	家庭科1名・技術1名



西予市においては、授業時間の関係から音楽の先生が家庭科を受け持つ傾向が多いです。また、最近では、数学の先生が技術を受け持つなどしています。

WHY?

免許状所有者の不足が特定の教科に集中
教員の配置定数と授業時間数のバランス 等

オンライン



将来的には、遠隔授業（リモートで別の学校の専門の先生とつながるなど）を使って、この制度に頼らなくてもいいようにする取り組みも進められています。



免許外の教科を受け持つ先生方は努力され、きちんと授業は行っていただいておりますが、「専門の先生が教える教科」と「免許を持っていない先生が教える教科」と考えると、専門性の差というのはあると思います。

生徒数が少なくなると、学級数が少なくなり、学級数に応じて配置される教職員も少なくなります。校務の分担や免許外教科などにより、先生方の負担も増えることになります。子どもたちに平等な教育環境という観点、先生方の負担を少しでも減らし、その負担が減った分を、子どもたちに目を向けていただこう！と考えると、一定規模の生徒数が必要ではないかと思います。

次回：施設の老朽化についての課題